逗子市長と葉山町長が平和行進団を激励

●15日、葉山町役場に集合し、森英二町長の挨拶を受け、昨年に続いて町長が約１キロを歩きました。町長は米国青年のホームスティを受け入れた時、原爆投下の正当化について議論したこと、その後、その青年が広島を訪れ、大きく認識を変えたことが話され、オバマ大統領の発言を捉え、被爆者が生きている間に核兵器廃絶をすべきだと述べらました。

平井竜一市長

森英二町長（左から２番目）

●逗子市役所前では平井竜一市長が行進団を手迎え、挨拶とメッセージを受けました。

市長からは、逗子市のピースメッセンジャー事業（中学生の被爆地訪問）が紹介され、「ともに核兵器廃絶にがんばりましょう」と述べられ、参加者を励ましました。

PEACE WAVE 平和の波 No.109
原水爆禁止逗子市協議会ニュース　発行2009年5月　連絡先　逗子市逗子5-8-21　電話873-0739

県道を歩く行進団

葉山町非核平和標語コンクール「金賞」

平井竜一市長のメッセージ

「被爆６４年、核兵器廃絶２００９年平和行進」にご参加の平和行進神奈川県懇談会の皆様に心から敬意を表します。

広島・長崎に原爆が投下されてから６４年が経過し、戦争や原爆の記憶が次第に風化しつつある一方、世界各地では依然として紛争が絶えず、人々は未だに核の危機にさらされています。

特に、近年、核兵器不拡散条約（ＮＰＴ）加盟国による核開発疑惑や非加盟国による核実験の強行など、核不拡散体制を脅かす動きが顕著になっていることは大変に懸念されるところであり、世界の非核化を願う人々に大きな衝撃を与えています。

本市は、平成１６年４月に「逗子市非核平和都市宣言」をしており、核実験実施の際には、核兵器のない平和な世界の実現に向けた思いを伝えるべく抗議文を提出するなど、鋭意取り組んでまいりました。

残念ながら、こうした取り組みにもかかわらず、現実には核保有国においては核軍縮が遅々として進まず、また新たな核開発の動きが見られるなど、核兵器根絶への道のりは未だに遠いと言わざるをえません。

しかし、私はこのような時代こそ、草の根レベルで平和への願いを訴え、語り継いでゆくことが必要であり、市民に最も身近な市町村の役割はますます重要になっていると認識しています。

本市では、市民の皆さんに広く紛争や貧困などの国際的な諸問題について学んでいただくことをねらいとした国際理解講座事業や、若い世代が戦争や核の問題を知り語り継いで行くことを目的に、市内中学生を被爆地の広島・長崎へ派遣するピースメッセンジャー派遣事業を実施いたしております。

今後も、多くの方に平和な社会の実現について考えていただけるよう努めるとともに、地域の皆さんが安心して暮らせるまちづくりに取り組んでまいりたいと思います。

最後に、この「被爆６４年、核兵器廃絶２００９年平和行進」のご無事と皆様のますますのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

２００９年（平成２１年）５月１５日

逗子市長　　平井　竜一

逗　子　市

青い海と　みどり豊かな　平和都市

池子ゲート前では「池子の森を壊すな 米軍住宅増設反対！」

●午後は移動し、鎌倉市内を行進しました。